

書家・パーソナリティー 矢野きよ実さん

一番つらい時に味方になってもらった人たちに
一生かけて恩返しをしていきたい

なでしこ力



矢野きよ実さん

古くは「5時SATマガジン」、「ドデスカ」などのテレビ番組やラジオで活躍した矢野きよ実さん。現在はパーソナリティー、書家として活躍中で、激動の人生を知る人からの講演会の依頼も絶えない。縁があつてつながった東北には今も出向き、被災地の人と活動を続ける多忙な毎日である。

名古屋では知らない人がいないほどの人気パーソナリティー・矢野きよ実さん。10代でモデルデビューし、タレントとして活躍。ローカルバラエティ番組「5時SATマガジン」をはじめ、朝の情報番組「ドデスカ」では約10年間活躍、常にテレビ・ラジオのレギュラー番組を持ち続けてきた。

来る仕事はすべて拒まず 引き受けてきた

現在の仕事はパーソナリティー、書家など多岐にわたる。幼少期から習字を習い17歳から始めた書で多くの受賞歴があり、2005年から松坂屋名古屋店で書展を開催している。書に関するイベント開催のほか官公庁からの仕事の依頼も多く、「愛・地球博の総合司会」、「COP10広報アドバイザー」のほか、2017年からは「名古屋観光文化交流特命大使」として活躍中だ。ほかにも「ラグビーワールドカップ開催都市特別サポーター」「名古屋小児がん基金特別顧問」など多くの仕事を引き受けている。

「来る仕事、依頼されるボランティアはすべ

て引き受けてきました」と矢野さん。

2011年の東日本大震災では日本赤十字愛知代表使節団として震災1カ月後から現地に入ったことで矢野さんの生活が変わった。直後は毎週のように東北に出向き、物資支援や炊き出しを行った。同じ想いを持つ仲間で作ったボランティア組織「無敵プロジェクト」とともに、引き寄せられるように縁がつながった石巻市雄勝(旧・雄勝町=震災で約300人が亡くなった)を中心に、現在でもボランティアに通い続ける。被災した人と関わりあい、子どもたちには「書の療法ともいわれる授業」なども行っている。

多彩な活動の幅の広さに加え複数の大病を経験、現在では、医療・災害・教育・福祉などさまざまな分野での講演依頼が入るようになった。コロナ前までは多い時は月に20本もの講演会を行っていた。

矢野さんは常に仕事の準備に膨大な時間をかけている。放送台本は自分のセリフだけでなくすべてを暗記し、アドリブを入れられるようにしていた。モデル事務所設立後は経営者としての勉強も欠かさなかった。特にアーティストへ

のレスポンスが高く、名古屋にゲストを迎える場合は、デビューからの全曲(アルバム曲も含む)を聴き込んでから番組に臨む。準備に時間をかけたインタビューはアーティストの心を開き、初めての言葉を引き出し評判となり、アーティストとの人脈が大きく広がっていった。

仕事に対する真摯な姿勢と実力が高く評価され、30代では多い時は東京・大阪・名古屋で計7本のレギュラー番組(深夜ラジオを含む)、ファッションモデルの仕事、モデル事務所の仕事も加わり経営者としても忙しかった。

仕事に全力で立ち向かったことで睡眠時間はわずか2時間になり、40歳を前に体を壊し大手術も経験。「やっぱり一人でやるのがいいのかな」と仕事を見直し、モデル事務所は閉鎖した。

すべてが出逢いの縁で つながっていた

その後、長男を出産。「子どもを理由に仕事をおろそかにしたくない」と、頼れる人には頼り、自分が生まれ育った大須の街の人たちにも見守られながら子育てをしていった。「私はいろいろな場面で助けられ育てられてきました」と振り返った。還暦を迎えた今年、生活を改めて見直し、10代から途切れなかったレギュラーを持たないことを自ら選択、自分のペースで仕事を進めている。

「すべてが出逢いの縁でつながっていました」と語る。受けた仕事にしっかり向かったことで仕事の幅がどんどん広がり、周囲に人が集まり、多くのミュージシャンとの縁もできていった。東北との縁で書を中心にしたボランティア活動は全国に広がり、ライフワークにもなっていく。これまで書の活動はボランティアに限っていたが、今後は書の教室を開催していこうと考えるようになった。

30代での大病、40代でのがんの発症、50代では事実婚の夫が逮捕されるなど、矢野さんの人生は波乱に満ちているが「いろいろなこと



講演会のステージには代表作の無敵も



があると誰が味方かが分かってきます。自分のために泣いてくれた人、助けてくれた人、味方でいてくれる人、育ててくれた人たちのために、一生恩返しをしていこうと思っています」。

最後に、40年間変わらない「美の秘訣」を聞いた。健康に留意し料理が得意な夫の晩御飯を楽しむ毎日だが、サプリメントは飲まない。体重も10年前から6キロ増えたが「まあいいかなって」と笑う。「今は何も抗わないで生きています。まずは自分が元気でないと。大事なことは前の日のことを全部忘れて持ち越さないこと、疲れたら寝ること、悩んだことは人にしゃべる。嫌なことは嫌と言ひ、明日に持ち越さないこと。そして物事は人の言葉でなく自分の今日の目で確かめることです」。

すべての人や出来事に開いた目を持ち、流れに任せて暮らすことの大切さを体全体で表現し、「人を惹きつける力」を強く感じさせる人だった。

(塩崎 文香)